

未来へ続け！

～継続は宝なり～

岩手県立広田水産高等学校 3年家政科 食物班 12名
磯積真唯子 梅木美奈 及川由貴 菅野麻美 小松美奈 佐々木美紀
佐藤久美 鈴木友絵 東野志生里 藤井マナミ 村上雅美 山本真衣

I はじめに

統合が決定し、広田水産高校家庭クラブとしての活動がわずかとなり、今まで続いてきた家庭クラブ活動を振り返り、これから自分たちができることを改めて確認していきたいと考えています。

II 題目設定の理由

家庭クラブ活動では、10年以上広田町に住む一人暮らし高齢者の方々との交流を行っています。以前は、訪問活動を行っていましたが、受け入れ先の減少や様々な理由で、訪問活動が困難になり、近年は、はがき活動を中心に行っていません。

また、交流活動以外として、水産技術科の開発製品を使用し地産地消を目指した食品開発活動も行ってきました。

統合が決定し、別々に活動してきた二つの継続活動の一つにして、地域交流活動へつなげることができないだろうかと考え、この題目を設定しました。



III 実施計画

- 1 継続活動の把握
- 2 継続活動の一本化へ向けて
- 3 はがき・椿通信製作
- 4 食品開発活動
- 5 交流会の実施
- 6 まとめと今後の課題

IV 研究活動

1 継続活動の把握

家庭クラブでは、広田町に住む一人暮らし高齢者と以前から交流活動を行ってきました。調べてみると10年以上、訪問活動や、手作りのカレンダー、はがき、巾着、本、椿通信の製作・送付など、様々な形で交流を行っていることがわかりました。

訪問活動の受け入れ状況を調べたところ、平成7年度には13人が受け入れをしてくださいましたが、最近、高齢者の年齢も上がり、訪問活動は遠慮したいという方が多く、なかなか受け入れ先がなく、校外活動より校内活動が多くなっている状況でした。

継続活動の二つめは、水産技術科の開発製品を使用し地産地消を目指した食品の開発活動です。沿岸産品と内陸産品の融合を目指して取り組み、沿岸産品として、本校水産技術科で開発した製品と、内陸産品は南部小麦を利用し、「わか粉ちゃん」・「ほたてっこ」を生地に練り込んだパンやひつまみ、ピザなどがあり、「パイロタのにがり」を使用した豆腐も研究しました。昨年度は、「わか粉ちゃん」と「パイロタの塩」を使用し、三色餃子の皮の研究を行いました。



2 継続活動の一本化に向けて

今年度は、「継続活動である一人暮らし高齢者との交流活動」と、「水産技術科の開発製品を使用し、地産地消を目指した食品開発活動」の二つを合わせて、一つの活動にする方法について考えました。

話し合いを行った結果、①校外活動を行い高齢者とふれ合う場を作りたい、②地域の人に自分たちの作った食材を食べてもらいたい、という意見が多く出され、「高齢者交流」と「開発した食品の試食会」の二つを合わせた「地域交流会」を開こうという目標を立て、2班に分かれて取り組みました。

3 はがき・「椿通信」製作

はがき活動では民生委員の方に協力していただいています。民生委員の方の話では、「はがきが来るのを楽しみにしている」ということで、快くみなさん協力して下さっていると聞きし、私たちも活動意欲がわきました。

はがき製作では、広田町に住む一人暮らし高齢者が60人近くいるので大変でしたが、写真を貼ったり、手書きで大きな字を意識して丁寧に仕上げました。

また、「椿通信」という学校行事などを紹介する通信を発行して、最近は大きな「椿通信」を製作し、地域の方が利用する郵便局や、黒崎仙峡温泉に掲示していただいています。

昨年度は発行数が少なかったため、今年は2ヶ月に1枚を目標に取り組んでいます。



4 食品開発活動

今年度の開発食品を考えた時、昨年度までの研究で、沿岸産品では「わか粉ちゃん」が一番くせがなく、内陸産品では「南部小麦」が応用の利く材料であるということがわかっていたので、今年も地産地消を意識し、この二つの材料を使用することにしました。

また、開発条件として(1)高齢者を対象とした食品や(2)特産品となりうるものを前提に開発を行いました。

陸前高田市では、わか粉ちゃんを使用したわか粉ちゃんラーメンがあり、地元では好評です。手軽に食べられるラーメンに近い食べ物を考え、岩手の3大麺の一つである「冷麺」の開発ということになりました。

冷麺は、高齢者を対象としているので、堅さの調節や、食欲が出るよう彩りを考え、味付けは薄味に仕上げるように意識して作りました。

また、わか粉ちゃん入りかりんとうや、マドレーヌを作り、郵便局や黒崎仙峡温泉へ試食をお願いし、たくさんの方の意見を取り入れながら開発活動を進めることが出来ました。



5 交流会の実施

交流会は、9月の敬老の日に、いつも「椿通信」を掲示してもらっている、黒崎仙峡温泉で行うことになりました。一人暮らし高齢者の家に、招待状を送り、はがきを持参してくれるようお願いしました。

また地域の方にも来てもらえるように、ポスターを作り、郵便局、農協、黒崎仙峡温泉に掲示しました。

試食品は、わか粉ちゃん入りの冷麺、かりんとう、マドレーヌ作り、おみやげ用のマドレーヌを用意しました。

前回のアンケートで「レシピが欲しい」という意見があったので、試食カードとレシピを用意し配ることにしました。

はがきを持参してくれた方も数人いて、その方には、おみやげ品の他に、刺し子布巾もプレゼントしました。

交流会は、地元の新聞や、岩手日報にも取り上げられ、私たちの活動を地域の方々にお知らせするよい機会になったと思います。



6 まとめと今後の課題

今年度は、二つの継続活動を一つにして地域交流活動につなげることを目標に取り組んできました。

高齢者交流では、校内活動が中心で、高齢者と会う場がなく、交流活動を通じ、直接会話をする機会が持て、「いつもはがきをありがとう」と笑顔で感謝されたときは、とても嬉しく、校内活動では得られなかった充実感がありました。

食品開発活動では、地産地消を意識して自分たちが作った物を、たくさんの地域の人に消費してもらう機会を作ることができ、貴重な意見をたくさん頂いたので、特産品となるような物の開発を目指し、さらに改良を続けながら研究を行い、今後も2つの活動をつなげていく活動を考えていきたいと思っています。

一人暮らし高齢者の方から、お礼の言葉が書かれた手紙が何通も学校に届き、その手紙は私たちにとって宝物となっています。

今後、家庭クラブ活動をどのような形で継続していくかという、大きな課題はありますが、今まで先輩方が積み上げてきた物を宝物として大切にしながら後輩たちへ受け継ぎ...そして未来へつなげていけるように、考えていきたいと思えます。

